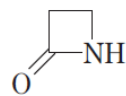


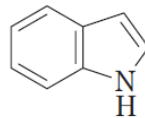
〔例題 1〕医薬品又はその関連物質に含まれる基本骨格ア～オに関する次の記述

のうち、正しいのはどれか。

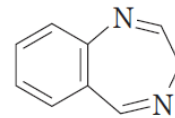
ア



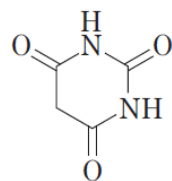
イ



ウ



エ



オ



1. アは、抗生物質であるセファレキシシンやセファロチンナトリウムなどに含まれる基本骨格である。
2. イは、抗結核作用を有するイソニアジドやエチオナミドなどに含まれる基本骨格である。
3. ウは、催眠鎮静作用を有するフェノバルビタールやアモバルビタールなどに含まれる基本骨格である。
4. エは、抗不安作用を有するジアゼパムやオキサゾラムなどに含まれる基本骨格である。
5. オは、アミノ酸であるL-トリプトファンや降圧作用を有するレセルピンなどに含まれる基本骨格である。

〔正答 1〕

〔例題2〕我が国の感染症に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

なお、「感染症法」とは「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」をいう。

1. 結核は、結核予防法が廃止されて感染症法に統合された際、二類感染症に分類された。
2. 鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）及びその他の高病原性鳥インフルエンザは、いずれも二類感染症に分類されている。
3. デング熱、ウエストナイル熱、マラリアは、いずれも蚊によって媒介されるウイルス感染症であり、四類感染症に分類されている。
4. ウイルス性肝炎のうち、B型肝炎とC型肝炎は四類感染症、A型肝炎とE型肝炎は五類感染症に分類されている。
5. 後天性免疫不全症候群（AIDS）は五類感染症であり、我が国の患者数は平成17年（2005年）以降漸減傾向にある。

〔正答1〕